

明星大学出版部の設立の趣旨と現状

名 取 淳*

はじめに

株式会社明星大学出版部(以下「本出版部」)は42年ほどの歴史の中で、その目的のために、どのように経営され、明星大学の教育に寄与してきたのか。その政策には社会の変化に応じてどのような変化があり、現在は明星大学の教育に対して何が求められ、どのように経営されているのか。今後、明星大学の教育にとってどうあるべきか。今後も存続して行くべきなのか。この部署に赴任して疑問が生じ、その確認に当たったが、このような単純な疑問に答える体系的なものがなかった。¹そのため、その端緒となるために、明星大学の歴史の一部、出版部の歴史を明らかにするために、この研究ノートを書くこととした。その方法は、本出版部定款、本出版部ウェブ・サイト、本出版部の経営や執行に携わった方々の残したメモおよびヒヤリング、本出版部株主総会資料、並びに大学出版部協会年史の整理である。

1. 設立の趣旨、目的

(1) 定款およびウェブ・サイトから

本出版部は何のために設立されたのか。本出版部の定款によると、その目的は以下の通りである。これは、本出版部の前身である株式会社めいせい出版(以下「めいせい出版」)の設立の時に定められている。

- ① 雑誌・書籍・教科書の出版販売
- ② 教育及学術に関する研究会・講演会・懇親会等の開催及後援
- ③ 上記に付帯する一切の業務

また、2009年に立ち上げた本出版部のウェブサイト²には、その目的と目標が以下の通り記されている。

「『教育の機会均等、門戸開放』の基本理念により、『開かれた大学で生涯教育をめざす』という大学拡張の方策に応えるために発意されました。明星学苑と一体となって出版活動を行うことが、本出版部の基本姿勢となっています。目標は以下の通りです。

- ① 大学のカリキュラムに即した講義テキスト、教育資料の発行
- ② 研究開発の成果としての学術書の発行
- ③ ユニバーシティ・エクステンションの趣旨に基づく学術的啓蒙書の発行
- ④ 一般の読者を対象とした教養書の発行

設立以来、一般読者を対象と教養書の発行や、哲学、社会科学、自然科学の各分野にわたる出版物を刊行してきましたが、明星大学戦後教育史センターが所蔵する CIE 広報機関誌 EDUCATIONAL DOCUMENTS OF OCCUPIED JAPAN Vol. I～V の復刻版と関連の書目は、戦後教育の骨幹となる占領下の教育改革を知る上の貴重な資料として国内外に知られています。今後もテキスト、教養書、研究書の刊行に努め、大学と連携を保ちながら、活動する方針です。」

* 株式会社明星大学出版部 事務長

(2) 出版部創設時の記録から

本出版部の前身のめいせい出版の代表取締役であった新村英一氏(以下「新村」)の残した「児玉九十理事長とのかかわり」³に、めいせい出版設立の経緯が以下の通り記されている。新村は千代田区にて信濃印刷株式会社を経営しており、そこにおいて自民党や文部省とのつながりがあり、長男の進学すべき高等学校の選定にあたり、児玉九十明星学苑理事長(以下「児玉九十」)を紹介され、明星学苑とのかかわりを持つこととなった。

「爾来偶然にも理事長と私と共通の知人、坂田道太氏(文部大臣)、稲葉修氏(法務大臣)、岸信和氏(西部石油社長)、と交流を共にし、……次第に理事長との交流を深める機会に恵まれる。」そして、幾つかの学苑に係る出版を請け負って行き、「昭和49年10月明星大学十周年史新本を持参の折、理事長より学苑経営の明星書房を育てたい、印刷を統一したい、君を信用する。学苑に貢献してくれとのご意向を承る」こととなった。新村は、自社ビルの中に明星出版を設置した。その概要は以下の通りである。

名称 株式会社めいせい出版

住所 東京都千代田区飯田橋4丁目1番11号

資本金 1,000,000円(2,000株)

めいせい出版の第1号出版物が児玉九十著『両親教育』(図1①③)であった。この出版に当たって、祝賀会が1976年1月7日に京王プラザホテルにおいて開催され、その歴史が始まった。なお、『両親教育』という同名の書を1936年に主婦之友社(図1④)から発行している。更に、1965年に喜寿記念で発行(非売品・図1②)している。両親教育とは、主婦之友社の『両親教育』において次のように児玉九十は述べている。

「教育は、師たる先生が、家庭及び社会の協力の下、青少年をしっかりした人物、即ち頼もしき国民に作り上げる作用であります…。家庭の力、社会の力を、無視してはならぬのであります。…家庭の教育化は、両親の教育的理解によって行われるのでありますから、御両親様方に教育目的自覚を喚起して頂くことなのであります。」⁴

この両親教育をはじめとして、明星学苑の教育目的自覚を喚起するために出版は必要不可欠であった。

図1 『両親教育』の画像



① 1976年版

② 1965年版

③ 1976年版

④ 1940年版

(3) 小川哲生前社長および三浦邦宏取締役のヒヤリングから

新村より、その立ち上げの経緯として、児玉九十の声掛けによることが示されていた。では、なぜ児玉九十は出版社を立ち上げたかったか。それについては、小川哲生前社長(以下「小川」)および三浦邦宏取締

役(以下「三浦」)よりヒヤリングを行い、その確認をした。まずは、小川のヒヤリング概要は次の通りである。

「児玉九十先生は、予てよりの自分の考え方を、教員や父兄たちに伝えるために『体験教育』を発刊していた。それは、学園内で作られていた。編集も印刷も先生たちで行った。それをもっと、組織的に体系的にできないか、学苑の発展とともに考えていた。九十先生は、戦前より優れた教育者として認知されていた。刊行物としては『両親教育』があった。啓蒙書として。体験教育を社会に啓蒙する。『両親教育』の復刻を考えた。

そのように考えていた時、偶然にも信濃印刷の新村社長の長男が明星学苑に入学した。新村氏はPTAの役員など積極的に明星学苑の教育を支援した。九十先生は新村氏に出版の機能を作りたいことを相談し、新村氏の資金援助にて、めいせい出版を創る。(昭和51年)まずは、『両親教育』の発刊をする。

めいせい出版としては出版社として売れる本を作らねばならない。他方、明星大学としては、教育・研究・学術の本を出したい。大学としては、大学出版部協会に加盟をしたい。出版部とすることを新村氏も同意し、めいせい出版を発展的解消して、明星大学出版部とした。明星大学の教員の学術研究の発表の場として行った。また、通信教育部の教科書を発刊する場とした。めいせい出版から出版部にするために、資本金を2000万円必要とした。そこで、元の資本金100万円を、明星学苑が2000万円にした。九十先生のものから、学術的なものへ、協会へ加盟した。』⁵

続いて、三浦に確認をした。三浦はめいせい出版の創設時からかわり、そこから出版部に移行することについて次の通りの説明があった。

「1979年に大学出版部協会への加盟を契機に、社名を変更するとともに代表取締役役に児玉九十が就任した。それによる組織の変更に伴い本社および編集業務を大学に移転して本部とし、営業所を飯田橋に置いた。資本金2000万円は全額明星学苑の出資となり、学校法人が一体となり出版活動を行うのが基本姿勢となった。以来、出版部は、営業所を信濃印刷に業務委託する形式をとり、本部の編集業務を通信教育部編集課が対応した時期が長かった。』⁶

その後、出版部の本部は通信教育部より独立しての運営を現在は行っている。また大学出版部協会(以下「協会」)には三浦が担当となり、出版部は協会の運営の支えとなった。1980(昭和55)年より三浦は総務担当幹事を長年に亘り行っていた。

2. 出版部の歴史と政策

(1) 出版部の沿革

設立時から現在までの流れを概観してみると、以下の「表1」の通りである。信濃印刷株式会社の社長の新村英一氏が初代社長となり、それ以降、明星学苑の者が社長を歴任している。まずは児玉九十理事長、それに続き、児玉三夫理事長・学長、塚田紘一通信教育部長、田中誠之学長、佐々井利夫通信教育課程長、齊藤和明理事長、小川哲生学長、大橋有弘学長と9代である。この社長の動きの中で、社長により経営方針に変化が見られる。創業から30年ほどは利息の支払が続いていた。新村英一社長の後の児玉九十社長および児玉三夫社長は、本の積極的発行を行った。特に、児玉九十社長のころはその収支は状態が良くなかった。その後の児玉三夫社長、塚田紘一社長および佐々井利夫社長の経営努力が齊藤和明社長の時期に実り、借金状態から脱している。これは、売れ行きの悪い書籍出版を控えたことであり、社会一般への出版よりも教科書に重点を置くことになった。その状況は、表2で確認されたい。

表1 明星大学出版部の沿革

年度	特記事項
1975(昭和50)年	・株式会社めいせい出版を設立(千代田区飯田橋)。 ・社長は新村英一(信濃印刷社長)
1976(昭和51)年	増資 支払利息発生
1977(昭和52)年	増資
1978(昭和53)年	株式会社明星大学出版部に改名 社長が児玉九十(明星学苑理事長)になる 大学出版部協会に加盟する(11校目)
1979(昭和54)年	本社を大学内に移転(営業所は千代田区飯田橋)
1983(昭和58)年	支払利息が100万円を超える
1989(平成元)年	12月に児玉九十社長死去
1990(平成2)年	社長が児玉三夫(明星学苑理事長・明星大学学長)になる
1995(平成7)年	9月に児玉三夫社長死去 社長が塚田紘一(通信教育部長)になる 支払利息が100万円を割る
1997(平成9)年	社長 田中誠之(学長)
1999(平成11)年	社長 佐々井利夫(通信教育課程長)
2004(平成16)年	社長 齊藤和明(理事長)
2005(平成17)年	支払利息がなくなる
2008(平成20)年	6月に齊藤和明社長死去 社長 小川哲生(学長)
2014(平成26)年	社長 大橋有弘(学長)
備考 大学出版部協会の「歩み」および株式会社明星大学出版部株主総会資料から作成する。	

(2) 出版物

出版物(講義ノートを除く)の件数を表2に年ごとに整理した。これを概観すると、前述の代表取締役との政策のかかわりがわかる。児玉九十社長のころは啓蒙にも力を入れて一般書籍をその後比して多く出版していた。これが、近年はほとんど教科書の出版に移行していった。その中で、教員採用試験合格者数を多く出すようになった教育学部の成果として、平成24年以降に教職センターより「教員採用試験対策講座」を出版し、一般市場での売り上げを上げている。

出版部がかかわった出版合計件数(講義ノートを除く)が42年間で200件であった。内、一般書等が63件、教科書が137件であった。出版活動を通し大学の使命である研究の成果を広く発表することにより社会貢献を行ってきた。それは半数以上が教科書であることから、「教育の明星」として、学部教育に重点を置かれたものであるといえよう。特に、通信教育部の通信教材には大きな役割をはたしてきたのである。紙面の関係で書名等を記すことができなかつたが、教科書の多くが教職に関わるものであったことを付け加えておく。

表2 株式会社明星大学出版部の出版件数一覧

	年期	合計	A. 一般書籍等の発行件数	B. 教科書の発行件数
01	1976(昭和51)年	14	6	8
02	1977(昭和52)年	13	3	10
03	1978(昭和53)年	6	2	4
04	1979(昭和54)年	4	1	3
05	1980(昭和55)年	6	4	2
06	1981(昭和56)年	8	4	4

明星大学出版部の設立の趣旨と現状

07	1982(昭和57)年	10	3	7
08	1983(昭和58)年	11	5	6
09	1984(昭和59)年	5	3	2
10	1985(昭和60)年	4	4	0
11	1986(昭和61)年	3	1	2
12	1987(昭和62)年	5	1	4
13	1988(昭和63)年	8	1	7
14	1989(平成元年)	5	2	3
15	1990(平成2)年	3	1	2
16	1991(平成3)年	3	1	2
17	1992(平成4)年	1	1	0
18	1993(平成5)年	6	3	3
19	1994(平成6)年	5	1	4
20	1995(平成7)年	4	0	4
21	1996(平成8)年	3	0	3
22	1997(平成9)年	2	0	2
23	1998(平成10)年	2	1	1
24	1999(平成11)年	1	1	0
25	2000(平成12)年	1	0	1
26	2001(平成13)年	0	0	0
27	2002(平成14)年	1	0	1
28	2003(平成15)年	9	3	6
29	2004(平成16)年	5	2	3
30	2005(平成17)年	2	1	1
31	2006(平成18)年	2	0	2
32	2007(平成19)年	1	0	1
33	2008(平成20)年	3	2	1
34	2009(平成21)年	12	0	12
35	2010(平成22)年	3	0	3
36	2011(平成23)年	7	0	7
37	2012(平成24)年	5	2	3
38	2013(平成25)年	1	0	1
39	2014(平成26)年	5	2	3
40	2015(平成27)年	3	0	3
41	2016(平成28)年	4	1	3
42	2017(平成29)年	4	1	3
	合計	200	63	137
備考				
1. 本社は年数が7月から6月となっているので、この表の年と通常の年と異なる。例えば、2017年は、2016年7月から2017年6月までを意味する。				
2. この表の教科書に、講義ノートは含まれていない。				
3. 本出版部内部目録データおよび本出版部株主総会資料を基に作成する。				

3. 2017年度期の現状と展望

2017年度期は次の4冊の出版を行った。

- ① 『第2版 教員を目指す君たちに受けさせたい論作文講座』 教職センター編、2016年11月
- ② 『現代教育制度と経営』 青木秀雄編著、2017年2月

- ③ 『自立と体験1 2017年度版』明星教育センター編、2017年3月
- ④ 『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと』齋藤政子編著、2017年4月

①は一般市場も狙った「教育の明星」を表す書籍であり、紀伊國屋書店を中心として全国販売をされている。1,200部発行し、その内の833部を販売している。その他は教科書であるため、履修者数分の売上となる。この中では、③が本学教育の柱である1年生必修科目ゆえ2,500部以上の売上を得ている。

これまでも述べているように、本出版部は教育学部の教科書を主とする新刊若しくは重版製作によって利益を上げている。特に重版による売上は経営上の大きな利点となるが、定款に定める事業目的の実現に向けて事業の推進に取り組みをすべきであろう。それは、「(2)教育及び学術に関する研究会、講演会、懇談会等の開催及び後援」への試みをおこなうことで、「教育の明星」を学外に知らしめることになると思う。

また、通常の出版業務としては、

- ① 須藤康介『教育問題の「常識」を問い直す いじめ・不登校から家族・学歴まで』
- ② 清宮義博『物理学実験(仮題)』
- ③ 金子敬二他『体育指導の達人になる(仮題)』
- ④ 学習指導要領の改訂および再課程認定に伴う教科書の改訂(6件)

などが計画されており、①は既に発行されている。

研究書等の出版については、大学出版部の使命に、研究の成果としての学術書を刊行することがあるが、教科書以外の出版は営業面でかなり困難な状況がある。

営業活動として、Amazon.co.jp(以下「アマゾン」)での書籍販売を行えるようにした。また、購入意欲を高めるために表紙の工夫をする。今現在、デザイン学部の協力を得て、学生のデザイン力の活用を進めている。これも「教育の明星」を具現化するものとする。また、ウェブ・サイトの更新を完成させ、今後の情報更新を行っていく。新刊紹介ではアマゾンとのリンクを設定して、相互作用の試みを考えている。

その他、出版活動ではないが、奨学金への教育支援を行っている。収益の一部を学生への奨学金支援として明星大学へ260万円の寄付を行っている。

今後の課題として重要なのが、電子書籍化へ向けての動きである。書籍の電子化は今後避けられないことである。これは、通信教育部の教科書のあり方を今後どのようにして行くか、その方向性にかかっている。何れ電子化を必要とされる時が来るであろう。そのためのデータ準備をしておかねばならない。更に、この電子データを準備することで、視聴覚の不自由な学生への支援の準備ができないかと考える。

4. おわりに

本出版部は当初、児玉九十の教育方針を組織的に啓蒙して行くことを目的として、めいせい出版を設立した。その後、大学の使命としての「社会の発展に寄与する」⁷⁾ことを目的として明星大学出版部と名称変更して、大学の成果を社会に提供することを担った。そして、特に通信教育部の教科書の発行を基に発展してきた。

本出版部は創立より42年を経て、今後、どのように社会に貢献すべきか。アリストテレスが『形而上学』の冒頭で言っているように「すべての人間は、生まれつき、知ることを欲する」⁸⁾のであるから、様々な欲望に出版部は応えなければならない。そして、出版部は「門番」でもある。「大学出版局には、学術と、そして読者の知的生活に対する重大な責任があります。…学術出版社には次の3つの信用を守る責任が課せられています。①出版社の信用、②その社が刊行してきた本の信用、③著者の信用」⁹⁾とウイリアム・ジャマーノ氏は言うように、出版するものに対して、真摯な対応が必要である。

本出版部が株式会社である以上、商品を生み出し利益を得るという商品経済の中に存在している。誰のた

めに価値あるアカデミック・キャピタル¹⁰にして行くべきか。大学としての政策を考慮しながら、価値と目的を定めての商品作成と流通を行うことが明星大学の教育に寄与することとなろう。そのために、今回の情報を分析し、明星教育のための出版部の在り方を今後、明確にして行く。それは、明星大学の歴史の中でどうであったのか、通信教育部との関係がどうであったのかを明らかにすることから始めたい。

以上

注

- 1 本出版部の歴史を記載している書籍は数少ない。本出版部の創設については『明星大学20年史』、大学出版部協会訪中参加について『明星ものがたり』に記されている。その他、『学天の明星をめざして』の巻末年表に創設年が記されている。
 - ・明星大学20周年史編纂委員会編『明星大学20周年史』明星大学、1974年、〈非売品〉、p.60-p.61。
 - ・兄玉九十、兄玉三夫『明星ものがたり 第4版』明星大学出版部、2006年、p.228-p.230。
 - ・編集委員会編『学天の明星をめざして』明星大学出版部、2007年、p.184-p.186。
- 2 <http://meisei-up.co.jp/about/>。
- 3 1997年9月20日の新村英一氏メモ（本出版部保管）。
- 4 兄玉九十『両親教育』主婦之友社、1940年。
- 5 小川へのヒヤリングは、2017年8月10日（木）に学校法人明星学苑の副理事長室において行った。聴き手は三浦および名取淳（本出版部事務長、以下「名取」）である。予め、①出版部を立ち上げた目的、②めいせい出版時代の状況、③明星大学出版部への移行等の質問事項を用意した。この質問に対して、90分ほどほとんど小川が裏話を含めての語りであった。
- 6 三浦へのヒヤリングは、2017年8月30日（水）に株式会社明星大学出版部本部執務室において行った。聴き手は、名取である。前回の小川の情報共有した上で、以下の質問をした。①明星大学出版部の運営の在り方、②大学出版部協会との関わり、③通信教育部と出版部のあり方等の質問を用意し、30分ほど語っていただいた。
- 7 「教育基本法」の第七条に「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」とある。これは改正により、社会貢献が加えられている。出版部は、その意味でも、学外に目を向けて、社会に対して出版物を出し続けなければならない。正に、ジョンホプキンス大学の初代総長のダニエル・コルト・ギルマンが述べたように「教育（教授陣）と研究（教授陣と図書館）に加えて発表（教授陣と図書館とそれに大学出版部）がなければならない」（G.R. ホーズ『大学出版部』東京大学出版会、1969年、p. iv）のである。
- 8 アリストテレス（山本光雄編）『アリストテレス全集1 2 形而上学』岩波書店、1968年、p.3。
- 9 W. ジャマーノ『学術論文出版のすすめ』慶応義塾大学出版会、2012年、p.32-p.33。
- 10 S. スローター、G. ローズ『アカデミック・キャピタリズムとニューエコノミー』法政大学出版局、2017年、p.17。